

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	10 / 1964 / 20
タイトル	県下理科研究発表会、研究発表会を見て
著者名	杉木隆

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

# 研究発表会を見て

動物部門 1年 杉 不 隆

空全体に黒い雲が立ちこめていて、なんとなく薄暗い。天気の良いか、何にもやりたくない。どこかへいこうと思つても、別にゆくところもない。そこで学校へ行つてみることにした。部屋に入ると雲谷に行つていた者が帰つたらしくて、雑然としていた。本を見ていると菊地さんがやつて来て、きよりは理科研究発表会があると言つた。すっかり忘れてしまつていた。場所は商業高校である。

商業高校に着くと、みんながきていた。三浦さんは、緊張した面持で今すぐ近くに迫つた自分の番がくるのをまつていた。植物部門を見てきた二年生や三年生達が、いろいろと話し合つていた。来年の研究発表の参考にするらしい。その間に三浦さんの発表の番になつたので、みんな準備に手伝つた。黒板に、昆虫やら、蝶のサナギやらを書いたも ぞう紙をはつた。さあよいよ説明だ。説明が始められた。なにしろ発表時間が十分以内と定まつてあるので、いろいろな説明で忙しい。そうしているうちに、三浦君の発表は終つた。前にこの研究のための資料を読んだためか、なにかものたりないような気持だ。文章も相当除いている。少し心配になつた。三浦さんは発表が終つてさつぱりしたらしく、いろいろ発表態度などについて、話していた。やがてこの発表会最後の番になつた。スライドを使用して説明した。大変よいことだと思つた。来年できるならば、白黒でなく、天然色のものを使つてみたい。きつとすばらしいにちがいない。発表時までにはだいぶ間があつたので、みんなと、話しをしていた。はたしてその結果いかにかと思つていたら、見事に最優秀賞を勝ちとつた。動物部門の先生が、「好きで好きでたまらないで賞です」とおつしやつたので、集まつていた人達は、大笑いになつた。しかし総合優賞は他校にとられてしまつた。総合優賞をとるためには、物理や地学の方からも、研究作品を出さなければならない。青高でも来年から、物理や地学で作品を出したならば、きつと総合優賞も手に入れることができるであらう。

---